環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち”環境公共

第２６号　平成２７年８月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島 1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545FAX 017(734)8153

■最近の話題

沼田勝美氏　平成27年度「農村振興技術連盟大賞」受賞

サイエンスホールで表彰される沼田氏

全国農村振興技術連盟では、農村の振興に係る技術の啓発、普及等について大きな功績のあった会員等を「農村振興技術連盟大賞」として毎年表彰しており、本年度は、北三沢土地改良区理事長沼田勝美氏が大賞を受賞しました。

沼田氏は昭和 55 年に北三沢土地改良区の総代に就任されて以来、平成 6 年からは理事として、また平成 18 年からは理事長として、長年にわたり、同土地改良区の健全な組織運営と事業の推進に尽力されました。特に、ラムサール条約登録湿地の仏沼に隣接する北三沢地区の約 100 ヘクタールの水田において、ほ場整備事業の実施に尽力されるとともに、畜産農家との連携の下、新たな営農・栽培体系を確立し、長年の悲願であった耕作放棄地の解消を実現されました。また、同地区は、絶滅危惧種であるオオセッカをはじめ、様々な希少動植物の生息が確認されていることから、事業構想の早い段階から、環境と農業との共存を目指す取組を積極的に推進したことで、社会的な評価と共感を得ており、本県が提唱し、推進している「環境公共」の優良事例として評価されています。

平成 27 年度「攻めの農林水産業」推進講演会が開催されました

天羽氏による講演

平成 27 年 6 月 18 日、青森市のウェディングプラザアラスカにおいて、平成 27 年度「攻めの農林水産業」推進講演会が開催され、農林水産省大臣官房政策課長である天羽隆氏による講演が行われました。本講演会では、「地方創生のカギを握る『攻めの農林水産業』」を演題に、我が国の食料・農業・農村を取り巻く国内外の情勢や、今後の農政の展開方向の内容について、詳しい説明がありました。新たな農業・農村政策の方向性を示した「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、農林水産業を強くする「産業政策」と農業・農村の多面的機能の維持・発揮を促進する「地域政策」を車の両輪として推進し、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の実現を目指すこととしており、①需要フロンティアの拡大、②需要と供給をつなぐためのバリューチェーンの構築、③生産現場の強化、④多面的機能の維持発揮、の 4 つの柱を軸とした政策を展開することとしています。

■「環境公共」事例紹介

福島徳下地区（藤崎町）　～ナマズをシンボルとした地域活性化を目指して～

1　地区の概要

大区画に整理された水田

藤崎町の福島徳下地区では、農地集積による生産性が高く効率的な営農を目指し、平成２３年度から区画整理や暗渠排水などほ場の整備を行っています。

本地区では、かつてナマズが十川（とがわ）から遡上し水田で産卵していましたが、幹線排水路の整備によって水田との段差が大きくなり、水田まで遡上することが困難な状況となっていました。このため、ナマズとの共存を図る取組として、幹線排水路から遡上が可能となるよう水田魚道を設置するとともに、ナマズの生息が可能なビオトープを整備し、ナマズの生息環境の保全・再生を図っています。

2　ビオトープの整備

完成したビオトープ

ビオトープは、従来から地域の生き物を保全する活動を行ってきた徳下集落農村活性化協議会を中心に設立された地区環境公共推進協議会において、ナマズをシンボルとした保全計画の協議を重ねながら、水田魚道の専門家である宮城県の三塚牧夫氏のアドバイスを受けて整備しました。

平成２７年６月３日に行われた竣工式では、藤崎町長など関係者によるテープカット等が行われたほか、常盤小学校の３年生６５人により、魚道を遡上するナマズの観察や隣接する水田で田植えが行われました。

3　今後の取組

「なまず米」の田植えをする地元小学生

地区環境公共推進協議会では、今後も、ナマズ以外の水生生物をビオトープに定着させる活動を行うなど、環境と農業の共存を図っていきます。また、これらの活動を契機に、安全・安心で付加価値を高めた「なまず米」の生産に向けた取組を実施することで、地域農業の活性化を目指します。

水田魚道

米袋に貼る予定のデザイン

「環境公共」HP　http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyoukoukyou.html